

## 創刊のご挨拶 ～ 島の文化の「今」を発信 ～

この度、一般財団法人 佐渡文化財団では、地域の皆さまに佐渡の文化や芸能及び当財団に関する情報をお届けしたいと「さど文化板図」を発刊することになりました。

タイトルに掲げました「板図」とは、大工などが家を建てる際に、板に墨で描いた設計図のことです。町家が建てられていた時代に、複数の大工が、この板図に描かれている建築の情報を共有して1つの家を建てていきました。

この「板図」のように、佐渡の芸能を島民をはじめ、複数の関係者が共有することができる存在となるべく当財団も事業を展開していきたいと思っております。また、小木・宿根木に展示されている「白山丸」は、千石船の構造が記された「板図」が発見されたことで復元されました。

このお便りも、佐渡の文化の「今」を中心に発信し、この共通の財産を地域の皆さまと一緒に次世代へつなげていきたいと考えております。

今後とも当財団の事業運営にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一般財団法人 理事長 渡邊秀則



板図



復元された白山丸

## 工夫をしながら、島の春を告げる ～ 鬼太鼓 ～

コロナ禍が続く状況で、島内の各保存会では、例祭の実施について話し合いが続けられてきました。今年は、昨年に引き続き、中止とする団体もある中、工夫しながら実施した団体もありました。今回は、2つの団体について、紹介します。

### ○浜河内祭り(4月3日) 河内若手

今年は、昨年に続き、地区内の住民による式典のみの開催となりました。ただ、「来年こそ、いつも通りにできるように」との願いを込め、神社前で鬼太鼓を一打ち。集落内に太鼓の音が響き渡ったとのこと。現地に来られない方々に祭りの雰囲気届けたいと、神社での鬼太鼓の様子を

facebookでライブ配信もされました。企画した河内若手の皆さんは、「新た試みとして、来年へ繋げられた」と話していました。

#### ■ 鬼太鼓、今年の実施状況(令和3年4月30日現在)

	2020年	2021年
通常実施	5	8
縮小	2 6	2 2
中止	7 4	1 3

※財団で確認済の件数



浜河内まつりの様子

(裏面に続く)

# 工夫をしながら、島の春を告げる ～ 鬼太鼓 ～ (つづき)

## ○新保八幡宮の春まつり(4月15日)

今年の春まつりについて、祭組と氏子の役員が1月から実施するかどうか検討を重ねてきました。その結果、昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染防止対策をとりながら、実施することを決めました。

当日は、金井中学校などで鬼太鼓の披露をした後、拝殿に集まり3地区4組の鬼太鼓が一斉に舞いました。4組一斉に舞うことが有名で、例年、観客が集まってしまい密になることを避けるため、事前の宣伝を行うことも止めました。

役員の方の菊地敏郎さんは、「実施までの話し合いは大変だったが、地域の方々から『やってくれた良かった。』と、みなさん喜んでいただいたので良かったです。」と話していました。



工夫して実施した、新保八幡宮の春まつり

## 羽茂高校郷土芸能部が、文部科学大臣 優秀教職員表彰



表彰された顧問と指導者と  
郷土芸能部の部員

佐渡民謡など部活動を通して伝承している新潟県立羽茂高校郷土芸能部が、2020年度の文部科学大臣 優秀教職員の表彰を受けました。

4月6日に羽茂地区公民館で行われた伝達式では、顧問の先生と羽茂民謡研究会の指導者に表彰状と盾が贈られました。

部員たちは、8月に開催される全国高等学校総合文化祭に向け、さらに踊りの所作に磨きをかける練習に励んでいます。

## ご寄付のお願い

当財団では、佐渡の伝統文化を継承・保存し、その活用を通じて生き活きとした地域住民の暮らしの実現に寄与することを目的に事業を展開しております。

この活動に賛同いただける方のご支援、ご協力をお願いしております。詳しくは下記QRコードからホームページをご覧ください。

○和楽器を貸し出しています。和音に触れてみませんか。

○民謡など語り、指導いただける講師を派遣しています、ご活用ください。

○民謡や鬼太鼓などで培われた民芸品などのアイテムを通信販売しています。

